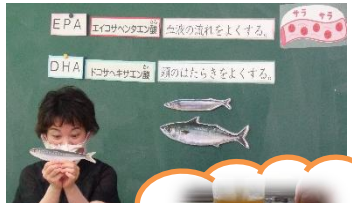
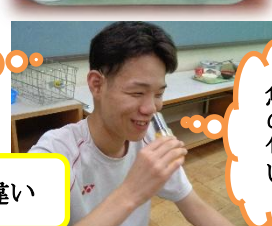


①「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立盲学校
該当項目 に ☒	取組内容 ☒ 教科等 (総合的な学習の時間) ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☒ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()
取組内容に該当 する食育ピクト グラム(複数選択 可)	☒  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒  ☒  ☒ 
取組内容	食育月間 取組名「 給食を交換しよう 」 実施時期「 6月から7月 」 実施学年等 取組中心クラス 中学部、 全校児童生徒参加 自慢メニューや、郷土料理などを取り入れた給食を、他県の交流校に紹介し、給食メニューを交換して食べる取組 取組順序 ① 本校から紹介するメニューについて、中学部が考えた5品から、全校での投票を経て、上位4品を紹介しました。  【写真】 おすすめメニューの投票結果 ② 給食交換のメニューを実施し、交流校の給食を体験しました。交流校も京都府立盲学校の給食を体験しました。 交流校からの紹介メニュー ◆ ゆず酢の五目ずし ◆ なすのおかか和え ◆ 日曜市(にちよういち)のいも天 ◆ 牛乳  【写真】 本校の給食

	交流校が実施した本校の紹介メニュー ◆ 丹後ばらずし ◆ 水菜のすまし汁 ◆ オレンジ ◆ 牛乳  【写真】 交流校の給食 ③ 互いの生徒同士のビデオレターの交換 ビデオレターを作成し、交換しました。 本校からは、給食時間に食べた交流校の給食への感想や、自分たちで栽培している京野菜について紹介するビデオレターを作成し、送りました。
成果	ビデオレターで顔が見える関係となり、地域ならではの料理を食べることで、互いの食文化や食について深く感じ、知る機会となった。 全校生徒が紹介メニューの投票に参加し、給食時には実際にそのメニューをみんなで味わったことで、学校全体が強い興味と関心を持つ取組となった。
課題及び 今後の展望	本取組をきっかけに、色々な地域と交流の輪を広げていきたい。

② 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立豊学校
該当項目 に☑	取組内容 ☐ 教科等 () ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☒ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()
取組内容に該当する食育ピクトグラム(複数選択可)	☐  ☐  ☒  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒ 
取組内容	食育月間 取組名「魚の油と肉の脂の違いを理解し、バランスよく食べよう」 実施時期：6月29日 実施学年等：高等部 3年生 内 容：日本人は魚離れが進んでいます。実際に給食時間の様子でも、魚より肉を好む児童生徒が多いです。そこで、肉の脂と魚の油の実物を観察し、魚に含まれる EPA 及び DHA について理解を深めました。  EPA エイコサペンタエン酸 血液の流れをよくする。 DHA ドコサヘキサエン酸 脳のはたらきをよくする。  さばのみそ煮 血液の流れ方のイメージ 魚の油：サラサラ流れる 肉の脂：固まりやすい  鰯の油（液体）と牛脂（固体）の違い  魚の匂い 
成果	魚のよさを理解したことで、魚の食べ残しはほとんどゼロになりました。
課題及び今後の展望	・食に関する指導の全体計画に基づいて教科等横断的に計画的に取り組みたいです。 ・毎日の給食カレンダーや毎月の給食献立表、学校ホームページ等で食についての情報を提供し、継続してバランスよく食べるように支援します。

③ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立聾学校 舞鶴分校					
該当項目 に ☒	取 組 内 容	☐ 教科等 () ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☒ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()				
取組内容に該当 する食育ピクト グラム(複数選択 可)	☒  ☐  ☒  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒  ☐  ☒ 					
取組内容	食育月間 取組名「食べ物の働きを知ろう」 実施時期 2026年5月26日(火) 小学部(第1・3・4学年) 食べ物の働きを知り、栄養バランス食べることの大切さを学習しました。 取組名「とうもろこしの皮むき体験」 実施時期 2026年6月15日(月) (3・4歳児、第1・3学年) とうもろこしの皮むきを体験し、給食で「蒸しとうもろこし」として提供することで、食べ物への関心を高めることができました。 取組名「好き嫌いせず、なんでも食べよう」 実施時期 2026年6月18日(木) 幼稚部(3歳児) 野菜を食べると病気になりにくい強い体になることを知り、好き嫌いせず何でも食べようとする意識をもつことができました。 取組名「給食ができるまで」 実施時期 2026年6月30日(火) 幼稚部(3・4歳児) 普段食べている給食がどのようにして作られているのかを知り、給食に対する興味や給食に関わる人への感謝の気持ちを育むことができました。 食育月間で取り組んだ内容を食育だよりもに掲載し、家庭でも望ましい食習慣について見直すきっかけとなるようにしました。					
成果	小学部は、掲示した栄養クイズに意欲的に取り組み、食材の色と働きを表す色の違いを理解して正しく分類できる児童が増えました。 幼稚部は、給食時間にも学習内容を振り返ることで苦手な食材にもチャレンジしたり、給食に関わっている人に「作ってくれてありがとう」と感謝の気持ちを伝えたりする姿が見られました。					

課題及び 今後の展望	今後も、給食を活用した指導や子どもの興味・関心を引く掲示物の作成を継続していくことで、望ましい食習慣の形成につなげていきたいと考えます。
-----------------------	---

④「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立城陽支援学校
該当項目 に ☒	取組内容 ☒ 教科等 (遊びの指導・生活単元学習) ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☐ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()
取組内容に該当する食育ピクトグラム(複数選択可)	☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒ 
取組内容	食育月間 取組名「動かして遊ぼう(お弁当を作ろう)」 実施時期「令和8年5月最終週」 実施学年等 重心教育部 小学部1年～5年 中学部3年 計8名 単位を通して、ゴムや磁石の性質を利用しておもちゃを作ってきました。その中で磁石を使ってお弁当の模型を作る活動に取り組みました。重心教育部の一部の児童生徒はミキサー食等を経口摂取していますが、多くの児童生徒は経管栄養で食事を摂取しています。全員が病院で生活しているため、食材に触れる機会がほとんどありません。少しでも食べ物に興味をもてるように、食品の模型を使って食材の色や形、大きさ等をそれぞれの方法で感じ取る時間を設定したり、簡単な料理の動画を視聴したりしました。その後、模型の中から気に入った食材を選んで、自分だけのお弁当を作り、友達や指導者に発表しました。
成果	「ピーマンは緑」「イチゴは赤」「エビフライにはしっぽがある」等、指導者と一緒に食材の特徴を確認することができました。その中で好きな食材を見つけることができた児童生徒もいて、毎回同じ食材を選ぶ姿も見られました。「お弁当」という概念を知ることは難しかったのですが、友達や指導者と見せ合う中で、「おいしそうだね。」「同じ食材を選んだよ。」等、コミュニケーションを楽しむこともできました。
課題及び今後の展望	食べることが難しい、食材に触れることも難しい児童生徒ですが、病院と連携を取りながら、可能な限り本物の食材に触れる機会を作りたいと感じました。今回の取組は模型や動画で食べ物に触れましたが、興味をもてた児童生徒が多かったです。本物の食材に触れることでより興味をもてるのではないかと感じました。

⑤ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立井手やまぶき支援学校					
該当項目 に ☒	取組 内容	☐ 教科等 () ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☒ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()				
取組内容に該当 する食育ピクト グラム(複数選択 可)	☒  ☐  ☐  ☐  ☒  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒ 					
取組内容	食育の日 取組名「よくかんで食べよう～かみかみ WEEK～」 実施時期「 令和 8 年 6 月 15 日～19 日 」 実施学年等 小学部 1 年生～高等部 3 年生 ① かみかみ食材を使った給食「かみかみ WEEK」 たこやさきいかなどかみかみ食材を使った献立を 1 週間提供した。 給食時、全校放送で献立の紹介や、よく噛んで食べることの効能を話すと共に、教室を巡回し、かむくんという口が動く手作りのハンドパペットを使って、かむことを感覚でわかるよう支援したり、楽しくリズムをきざんだりして支援し、学びにつなげた。 ② かみかみ絵本の読み聞かせ 「かむにんじゃ 2」というかむをテーマにした絵本の読み聞かせ動画を見て、よくかむと味がよくわかったり、消化しやすくなったりすることを知ったり、食べ物が身体の中でどのように消化されるか等を学んだ。 ③ 口腔体操 早口言葉を、初級、中級、上級と用意し、各学年の実態に応じたレベルで、口の動きを良くする体操を行った。 ④ 栄養教諭による授業 給食前に 10 分程度、口の動きを良くする言葉の練習をした。その後給食を食べ、かむことを意識して食べられるようにした。 ⑤ インスタグラムを用いて保護者等に取組について知らせ、かむことの良さを伝えた。   					

成果	子どもたちはかむくんを見ると笑顔になり、感覚支援をすることで、かみかみと言いながら、しっかり噛んで食べることができていた。明日のかみかみ食材はさきいかだねと話したりするなど、高く関心をもって取り組んでいた。発達の段階に合わせて読み聞かせ動画や口腔体操をすることで、子どもたちは絵本の内容をよく理解したり、毎日はやくちことばを言う練習をしたりと、楽しんでかむことの大切さを学ぶことができた。かむをテーマにした絵本は貸し出し数が増えた。
課題及び 今後の展望	かむくんを使った支援は、どの年代でも楽しんで意識をし、取り組むことができた。また、かむくんがいることによって、かむということを自然と意識することができていた。また、口腔体操は口の動きをスムーズにするため、継続して取り組めるよう啓発していきたい。

⑥ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立南山城支援学校
該当項目 に ☒	取組内容 ☒ 教科等 (総合的な学習の時間) ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☒ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()
取組内容に該当する食育ピクトグラム(複数選択可)	☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒  ☐  ☐ 
取組内容	食育月間 取組名「 田植え 」 実施時期「 6月12日(金) 」 実施学年等 中学部3年生、高等部1～3年生 計17名 地域の農家組合の協力を得て田植え体験を実施しました。普段自分たちが食べている「白米」がどのような過程を経て生産されるのかを理解することや、食への感謝を育む一助となることをねらいとしています。事前授業ではお米ができる1年間の流れの確認や、実際に種もみ、玄米、白米を使用し、触ってみることでご飯になるまでの過程を想像し、理解を深めました。 実際の田植え体験では機械を使わず、手で苗を植えました。一人3列ずつ担当し、早く終わった生徒は他のサポートをする等、助け合って取り組みました。活動の前後には農家の方の話を聞き、米作りに対する思いを知りました。
成果	初めて田植えを体験する生徒もおり、戸惑いながらも思い切って田圃に入り、一生懸命に作業を行う中で、農家さんの苦勞を感じることができました。地域の方から田圃の入り方や苗の植え方を聞く中で、自らお礼を伝える等、地域の方との関わりを深めている様子も見られました。 <生徒の感想> 「田植えは大変だったけど、楽しかったです。秋にある稲刈りも楽しみです。」 「田植えや米づくりの流れが分かったので良い機会になった。」 「苗を植えるのが楽しかった。後ろ向きで下がるのが難しかった。」 「秋にお米がたくさんできて栄養をとりながらしっかり食べたい。」

	
課題及び 今後の展望	個々でできることに大きな差があり、参加を見合わせる学級がありました。また、暑さ対策が年々厳重になっていき活動時間の配慮が必要となっていることが課題として挙げられます。しかし、田植えを楽しむ生徒は多く、価値のある取組となっています。秋に稲刈りを行い、収穫した米を給食でいただくことをとおして、食卓に並ぶ「ご飯」と関連付けるとともに、農家への感謝の気持ちを高めていければと思います。

⑦「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立丹波支援学校					
該当項目 に ☒	取 組 内 容	☐ 教科等 () ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☒ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()				
取組内容に該当 する食育ピクト グラム(複数選択 可)	☒  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒  ☐  ☐  ☐  ☒ 					
取組内容	食育月間 取組名「交流給食の取組」 実施時期「6月」 実施学年等：小・中・高等部の実施可能な学級 児童生徒が、普段接する機会の少ない調理職員と一緒に給食を食べながら、仕事の内容を聞いたり、食に関する話をしたり、日頃の感謝の気持ちを伝えたりして、交流を深めました。  					
成果	調理員との会食を通して、児童生徒は給食を身近に感じることができ、苦手な食べ物にも前向きに挑戦する様子が見られました。また、給食や食に対する興味・関心の向上がみられる等、食育の充実につながりました。					
課題及び 今後の展望	作る側と食べる側の交流を通して、食育の充実を図るとともに、調理員の業務に対する意欲向上にもつなげることができました。今後は、調理員だけでなく生産者等とも交流する機会を拡充し、食に関わる人々への理解や感謝の気持ちを育む取組を進めていきたいと思います。					

⑧ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立舞鶴支援学校					
該当項目 に ☒	取 組 内 容	☐ 教科等 () ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☒ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()				
取組内容に該当 する食育ピクト グラム(複数選択 可)	☐  ☐  ☐  ☐  ☒  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒  ☐  ☐ 					
取組内容	食育月間 取組名「よく噛んで食べよう」 実施時期「6 月中」 実施学年等：全学年 6 月 4 日～10 日の歯の健康週間に合わせて 6 月の献立ではカルシウムの多い食材、噛み応えのある食材を使用した。 取組名「玉ねぎの皮むきをしよう」 実施時期「6 月」 実施学年等：中学部 給食に使う玉ねぎを前日に皮むきを実施した。皮むきを体験することによって、調理員さんへの感謝の気持ちをもつことを目的に行った。					
成果	玉ねぎの皮むきを行うことで、家庭でも、料理をするときにお手伝いしようという気持ちが出てきた。また、同じ学部・学校の生徒がむいた玉ねぎを給食で食べることで、いつもより、残菜が少なかったように思う。					
課題及び 今後の展望	歯の健康週間の啓発をもう少し、給食室前の掲示板を使用して、できたら良かった。今後の行事食などは掲示板を使用して啓発を行おうと思う。					

⑨ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立舞鶴支援学校 行永分校					
該当項目 に ☒	取 組 内 容	☒ 教科等 (日常生活の指導) ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☐ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()				
取組内容に該当 する食育ピクト グラム(複数選択 可)	☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒  ☐  ☐ 					
取組内容	食育月間 取組名「とうもろこしを育てて、ポップコーンをつくろう！」 実施時期「第1学期」 実施学年等 中学部2・3学年 プランターに土をいれる作業から始めて、ポップコーン用のとうもろこしの種を蒔き、それからは毎日水やりをするようになった。 日々観察をしていると、芽が出てきたあと、日に日に大きくなっていった。 1学期中には収穫できず、ポップコーンづくりは、2学期に持ち越しとなったが、収穫を楽しみに毎朝水をやる姿が見られた。					
成果	毎朝の活動として、水やりすることが定着していった。収穫した後に、みんなでポップコーンをつくって、食べる、という目標があることで、その目標に向かって日々取り組む姿が見られるようになった。					
課題及び 今後の展望	茎がのびて、大きくなっていく実感は得られたが、なかなか実が大きくならないことに、やきもきすることがあった。 秋にみんなで収穫をして、ポップコーンをつくって食べる。その後、その実を一部残しておいて、翌年もとうもろこしを育てられれば良い。					

⑩ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立洛北高等学校
該当項目 に ☒	取組内容 ☒ 教科等 (家庭科必修科目「家庭基礎」) ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☐ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()
取組内容に該当する食育ピクトグラム(複数選択可)	☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒  ☐ 
取組内容	食育月間「6月」 取組名「文化の伝承ー茶の湯にふれて」 実施学年 第2学年スポーツ専攻クラス(計39名) 取組内容 流派「裏千家」の講師を招聘し、茶道を体験しました。 初めに、茶道の歴史や「利休」の教え、茶道具等について講義を受けた後、自分でお茶を点てていただく「自服」を行いました。併せて、礼法室において、お辞儀の仕方や立ち居振る舞い等について実践を通して学びました。 生徒たちは、興味・関心をもって積極的に取り組んでいました。  
成果	スポーツ専攻クラスは、試合や遠征等で他校と交流する機会が多く、この体験を通して相手を思いやる心や感謝の気持ち、礼儀等について改めて学ぶ意義が大きいと考えます。また、部活動等で日々慌ただしく過ごす生徒たちが、心落ち着けてお茶を点て、いただくことは心の潤いにもなりました。生徒からは、「和敬静寂は、スポーツにも繋がっていると気付いた」「茶道文化を知ってすごく良い体験になった」という感想を多く聞くことができました。
課題及び今後の展望	生徒の状況を見る中で、各家庭における日本の伝統文化や食文化にふれる機会は少なくなっていると思います。家庭科の授業では、それらを踏まえ、我が国の行事食や食事作法等を、調理実習においても和食や地産地消等を意識できるように指導しています。今後、海外の方と接する機会もある中で、日本の文化に触れることは心の糧となり、自信にもなると考えます。

⑪ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立洛北高等学校 附属中学校
該当項目 に ☒	取組内容 ☒ 教科等 (技術家庭「家庭分野」) ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☐ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()
取組内容に該当する食育ピクトグラム(複数選択可)	☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒  ☐ 
取組内容	食育月間 「6月」 取組名「文化の伝承ー茶の湯にふれて」 実施学年 第3学年全クラス (A・Bクラス計80名) 取組内容 お辞儀の仕方や立ち居振る舞いなどについて実践を通して学んだ後、自分でお茶を点てていただく「自服」を行いました。お菓子は、生菓子「あじさい」です。手の込んだ美しい季節のお菓子に、生徒は職人技を見たようで大変感動していました。お茶の点て方やいただき方、そしてお菓子など、その工夫と謙虚な気持ちを大切にする日本の文化に誇りを持ったようです。   
成果	穏やかな心をもってお茶を点てることや、相手や物に対して敬意を持って丁寧に行うことが大切なこと等を体感したようです。お辞儀の仕方や所作等、初めて知ることでも多かったのですが、自国の文化にふれることは大変楽しく、また、大切だという声が多くあがりました。中学生の多感な時期に、日本の伝統文化・茶道の心に触れたことは大変意義が大きいと考えます。
課題及び今後の展望	昨今、家庭において食文化にふれる機会が非常に少なく、小学生から塾通いをする生徒もあり、食事のマナー等についても懸念するところです。家庭科の授業では、1年生で「だしと行事食」、2年生では「雑煮とお節料理」、3年生で「茶道にふれる」ことをねらいとし、3年間継続して日本の食文化について学び、また、旬の食材や地産地消等を意識させながら調理実習にも取り組んでいます。今後も実習時間等を確保し、継続して指導する予定です。

⑫ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立嵯峨野高等学校					
該当項目 に ☒	取 組 内 容	☐ 教科等 () ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☒ 特別活動 (給食・クラブ活動・ <u>委員会活動</u> ・ <u>健康教育に関する授業</u>) ☐ その他 ()				
取組内容に該当 する食育ピクト グラム(複数選択 可)	☒  ☐  ☒  ☒  ☒  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐ 					
取組内容	食育月間 取組名「食育の取組」 実施時期「5月」 実施学年等：1年生 全クラス 「よく噛んで歯を大切に」という演題で、学校歯科医にご講演頂きました。 五感を感じながら食べることで食を豊かにし、健康な心身の成長につながります。薄味でも噛んでいると食材の味を感じたり（味覚）、咀嚼の音で食欲をそそられたり（聴覚）、料理の香りや食材の匂いで味わいが深まったり（嗅覚）します。 よく噛んで食べると、脳の活性化につながり健康寿命も延びます。噛むことは口腔内を良い状態に保つことにもつながり、口腔内の状態が良いと高齢になっても食を楽しめると話されました。					
成果	保健美化委員会が、今回の講演と生徒の感想を保健だよりにまとめ、教室に掲示をして振り返りました。 生徒の感想の中には、五感で味わって食べることの大切さ、1口30回噛むことの大切さ、よく噛んで食べることは生活習慣病の予防につながることを学んだ等の内容がありました。					
課題及び 今後の展望	歯科医に「食」の噛むことによる効果について講演して頂き、生徒は脳の活性化や健康寿命といった視点で理解を深めているので、次年度も継続して実施できればと思っています。					

⑬ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立北桑田高等学校 美山分校
該当項目 に ☒	取組内容 ☒ 教科等 (食文化) ☐ 学校行事等 (☐ 部活動 (☐ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 (
取組内容に該当する食育ピクトグラム(複数選択可)	☒  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒  ☐ 
取組内容	食育月間 取組名「 巻きずしを作る 」 実施時期「 6月17日 」 実施学年等：高校4年生 家政科（男子2人、女子2人） 家政科4年生の「食文化」の授業では、1学期は日本の食文化について学んでいます。「巻きずし」については、節分の「恵方巻」など、食べる機会はあるものの、家庭でつくることは減ってきていると感じ、みんなで調理実習をしました。「いなりずし」も作り、「助六」にしました。  
成果	すしめしを整えて、均等に広げるのは難しいものの、ご飯の端と端をあわせて「巻く」ことや、包丁を濡らしながら「切る」などコツを知ることができました。1年時の検定で「だし巻き」を作った経験を活かし、農業科が生産した「米」と「きゅうり」を活用できたのでよかったです。「干ししいたけ」「かんぴょう」「高野豆腐」「海苔」などの乾物を扱い、昔の人の知恵に思いを馳せながらつくりました。
課題及び今後の展望	今後の展望としては、この経験をもとに、各自が「細巻き」「太巻き」など気負わずに楽しく作ること、さらに「キンパ」や「カリフォルニアロール」など、世界の食文化へと発展していけると楽しいと思います。 課題としては、校内検定のように回を重ねて実習をしていないので、技術を習得するところまではできていないことです。

⑭ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立桃山高等学校 定時制課程					
該当項目 に ☒	取 組 内 容	☐ 教科等 () ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☐ 特別活動 () ☒ その他 (食育だより(拡大版)配信)				
取組内容に該当 する食育ピクト グラム(複数選択 可)	☒  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒ 					
取組内容	食育月間 取組名「食育だより(拡大版)配信」 実施時期「6月」 実施学年等 全学年 今年度の食育活動として4月から食育だよりの発行を行っており、6月は食育月間につき、その拡大版を発行します。 食育だよりは月ごとにテーマを決めて発行しており、6月のテーマは「食品表示の読み方」です。内容は月 A4用紙1枚を目安としていますが、6月は A4用紙2枚分を用いて、「原材料表示」・「栄養成分表示」・「添加物表示」・「アレルギー表示」について扱っています。 食育だよりは全生徒を対象に発行し、食育についての意識啓発を目的としたものになっています。					
成果	夏休みに向けて生徒の食生活に関わって、生徒自らが購入する際の食品選びでの意識向上に繋がるものになっています。 普段の生活で意識せずに購入していた食材について、原材料や添加物の表記を知ることにより自分の食べているものについてより深く知ることができるようになりました。					
課題及び 今後の展望	食育だよりについて、配信を行う発信一方通行ではなく、読んだ生徒の反応を受け取る形を今後構築する予定です。					

⑮ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立西城陽高等学校
該当項目 に ☒	取組内容 ☒ 教科等 (家庭科【総合的な探究の時間】) ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☐ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()
取組内容に該当する食育ピクトグラム(複数選択可)	☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☒  ☐ 
取組内容	食育月間 取組名「 だしのうま味を活かした実習 」 実施時期「 令和8年6月4日(木)、11日(木) 」 実施学年等 高校3年生【総合的な探究の時間】『京の食文化』選択者 32名 だしのうま味について学習し、実際にだしを使って「親子丼」や「にしんそば」を調理しながら、だしの取り方について学ぶ。  
成果	和食の基本となる「だし」のうま味について、実際に飲み比べをしながら、昆布だしやかつおだしの違いについて学んだ。 だしの取り方についても学習し、実際に調理しながら味わうことで、さらに和食の良さを感じ、興味関心を高めることに繋がった。
課題及び今後の展望	実際にだしをとったり、だしを使って調理をした経験がない生徒も多くいるので、繰り返し実践していく。

⑩ 「食育月間」の取組実績報告書

学 校 名	京都府立京都八幡高等学校					
該当項目 に ☒	取 組 内 容	☒ 教科等 (家庭科、生活科学コース) ☐ 学校行事等 () ☐ 部活動 () ☐ 特別活動 (給食・クラブ活動・委員会活動・健康教育に関する授業) ☐ その他 ()				
取組内容に該当 する食育ピクト グラム(複数選択 可)	☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐  ☐ 					
取組内容	食育月間 (1) 取組名「食育月間ポスター掲示」 実施学年等 両キャンパス全学年 (2) 取組名「異文化理解講習会」 実施学年等 北キャンパス第2・3学年					
成果	(1) 生徒が目にするところ(教室や廊下)に食育月間のポスターを掲示し、生徒の食への関心を深める機会となっています。 (2) 西洋料理の専門家を招いて、西洋の食文化をはじめ生活習慣を学び、日本の食文化の違いや共通点を考えることで、さらに食文化への興味関心を深める機会となっています。今年度は、5月にパン作りをし、各国の食卓事情を学習した。					
課題及び 今後の展望	外部講師をお招きするにあたっては、担当教員の力量に任されて、講師を探すところからかなりの負担になっています。今後、「食育」に携わって協力していただける講師一覧などがあれば、「食育」に関する取組がますます活発にできると思われます。					